

(様式2)

令和7年度

自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月27日

札幌市立共栄小学校

1 本年度の重点目標

学びをつなげ、心がつながる学校

2 本年度の経営方針

「学びを価値付け 心を育てる」

学ぶ力の育成 主体的に学習をすすめ、成長を実感できる子ども
豊かな心の育成 自分のよさを伸ばし、仲間を大切にできる子ども
健やかな体の育成 運動に親しみ、健康な体をつくる子ども
教職員の姿勢 同僚性を発揮し、よりよい学校づくりを行う
家庭地域との連携 学校を応援してくださる方との丁寧な関係づくり

3 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	学ぶ力の育成 ○主体的に学習をすすめ、成長を実感できる子ども ◇AARサイクルでの授業構築 ・より深く学ぶ授業の構築 ・習得した知識を活用して思考判断できるようにしていく ◇対話的な学び合いを取り入れ、思いを表出できる子へ ◇授業観と評価観の共有	A	前期学校評価と比べるとほぼすべての項目で、上向いた。「AARサイクルを取り入れた、子ども主体の学習活動」は、 ①習得した知識を活用して思考判断する場面を取り入れた学習活動 ②対話的な学び合い場面を多く取り入れた学習活動 ③相互承認や価値付けの場面を意図的に設けた学習活動 以上の3点がともに伸びていた。研究部を中心とした取組で、職員が手ごたえを感じたことと思う。相互承認や価値付けの場を意図的に設け、他者から認められる機会を増やすことができた。次年度の研究発表に向けて、研究の内容をまとめていけるとよい。	A	A
	豊かな心の育成 ○自分のよさを伸ばし、仲間を大切にできる子ども ◇自他の命を大切にする授業・取組 ◇自治的活動での支援と価値付け ◇憧れを生み思いやりの心の育成 ◇共生社会に基づく特別支援教育や福祉教育の充実 ◇人権を尊重し、多様性を認める取組の推進	B	項目「豊かな心の育成」は、元々全体的に評価が高い項目である。ただ、子どもの姿で評価する「自分のよさを伸ばし相手を思いやる子どもに育っているか。」については評価が下がった。「3つの「あ」+1」の定着具合の低さ（特にあいさつ？）が原因か。 「3つの「あ」+1」については、後期で唯一評価が下がった。子どもたちの自治的活動から改善されていくとよいことは勿論だが、教師主導の取組も必要かもしれない。 「学びを支える集団作り」の観点も非常に高い。これは前年度、前々年度からの伝統で、本校の教職員集団の強みであると考えられる。これからも継続していきたい。	A	A
	健やかな身体の育成 ○運動に親しみ、健康な体をつくる子ども ◇休み時間の学級遊びの奨励・効果的な元気タイムの取組 ◇体育での継続した体力づくり ◇自ら健康管理する力の育成	A	項目「健やかな体の育成」では、前期学校評価と比べるとほぼすべての観点が上向いた。ただし、やや改善傾向がみられるものの、「時間を意識して動くなど、毎日の生活リズムを意識して行動できる子どもの育成。」については周りに比べ評価が低い。「3つのあ+1」と同様、自治的活動からの改善を基本としつつ、教師主導の取組も考えていく必要があるかもしれない。	A	A
	教職員の姿勢 ○同僚性を発揮し、よりよい学校づくりを行う 家庭地域との連携 ○学校を応援してくださる方との丁寧な関係づくり	A	ほぼ全ての観点が上向いた。「服務規程の遵守」「子供で語り合う職場」の項目が高い。良い職場づくりのために、これからも改善できるところを探し、進めていく。 「地域の教育力の活用」の項目がかなり上向いた。総合的な学習の時間や生活科での出前授業等で、地域の方の力を借りることができたことが要因と考えられる。次年度にも生かしていけるよう、資料を残していけるとよい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		・評価項目、豊かな心の育成の改善方策でも言及されているが、今年度来校した際、すれ違う子どもたちから挨拶が少ないと感じた。挨拶の気持ちよさに気付いてもらいたい。			

			<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間に、地域の人材を活用した学習を行った際、参加した地域の方から充実感にあふれる感想を聞くことができました。 ・今年度の重点目標や経営方針に基づいて、子どもたちへの育成に尽力されていることに感謝しています。また、日々の授業を大切に「分かる、できる、楽しい」という基礎基本の定着を心掛けていることは大いに評価したいと存じます。 		
重点目標の具現化・運営	教育課程部 ・学校教育目標の実現に向けて、全校的な視野に立った各部の連携、及び学校評価をもとにした学校づくりの推進	B	今年度から総合的な学習の時間を「つなぐLab」という名称で取り組んだ。先生方の創意工夫が見られた。社会の事情に応じた改善が必要な部分。今年取り組んでみて、改善が必要なところは、引継ぎをしていく。元気タイム・マット跳び箱週間では教師主導、児童の自治活動のバランスを模索しながら行った。また、全校外遊びも新たに取り入れた。今後も、より効果の高い活動を目指して、頻度や回数、実施方法などを改善していく。	A	A
	研究部 ・学校教育目標の実現に向けて、「学ぶ力」を育む授業創造をめざした校内研究・研修活動を推進	A	「つなぐ、つながる、つなげる」をテーマに、全員授業公開を行い、授業の録画保存を通して授業を見合った（教職員同士のつながり）。教科部会で複数回見直したり、自分の授業を観てふり返ったり、様々なことに活用することができた。児童同士がつながるための交流の仕方などを検討することができた。より深い学びにつなげるための工夫を行った。単元の中に「本物に触れる（本物の経験）」、「子どもが自ら学びをコーディネートする」場を設定した。来年度も「つなぐ」を意識した取組を進めていく。	A	A
	行事部 ・学校教育目標の実現に向けて、体験的な活動を通して、学校生活の充実と発展を目指し、秩序と変化を与える活動の推進	B	体育発表会をはじめとして各行事において、学年ごとに進め方を工夫することで、児童が協力して自ら創り上げる行事へとつなげることができた。来年度も、今年度までのノウハウを生かしながらねらいを達成するための学校行事の在り方を考え、目指す子どもの育ちを明らかにした上で活動を精選し進めていく。	A	A
	児童活動部 ・学校目標の実現に向けて、「さっぼろっ子自治的な活動」として、児童会活動、異学年交流の活性化を通して、温かい心のつながりをつくることで、学校生活の充実と向上を図る活動の推進	A	異学年交流（キラキラ交流、委員会活動、クラブ活動）を各教室に分かれ、実施することができた。キラキラ交流など縦割りの活動については本校の特色の一つであり、子ども同士協力しながら豊かな心で成長をしていく大切な活動である。設定された時間だけでなく、日常的にも関わる場面が多くなった。上の学年の姿を知る機会ともなった。また昨年度に引き続き、共栄スマイルラリーを開催することができた。活動の内容や方法については、子どもたち同士が、直接ふれ合えるように、活動を工夫することができた。「キョーエイサミット」として、委員会の活動内容を全校で共有する場を設定した。高学年だけでなく、低学年も身近に意識することができた。	A	A
	学びの支援部（新設） ・特別な教育的支援を必要とする子どもに対し、適切かつ効果的・効率的な指導を推進する。	A	教職員間で迅速に相談できる体制を整えるために、ブロックごとに相談窓口となる担当者を定め、ケース会議を開催したり、関係機関・関係者につないだり、対応の検討をすることができた。また、校内登校支援センターの運営では、今後も担任との情報共有を大切にし、全職員で支えていく姿勢を続けていく。	A	A
	安全環境部（新設） ・子どもが安心・安全に学習することができる校舎内外の学習環境の整備を推進する。	B	後片付け、時間意識が薄いことが児童へのアンケートで明らかになった。来年度に向けて、子どもたち自身で確認できるような仕組みをつくる。具体的にはごみの分別についての掲示、片付けチェックリストの活用など。開始の時間を伝え、そこに移動する時間を含めて必要な時間を考えて行動する習慣をつけられるように関わる。	A	A
	学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・熱心に子どもたちの指導に取り組む先生方の姿が、日々のいたるところで見受けられ、子どもたちもよく応えていました。社会情勢、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化中、先生方のご苦労尽力はわかりかとお察しします。子どもたちも先生方も忙しいのが気がかりです。微力でも学校に関わりサポートできたらと願います。 ・子どもたちの教育活動に熱心に取り組んでいただき感謝している。働き方改革や子ども、保護者の考え方の多様化など今の時代ならではの苦労も多いことと願っています。これからも子どもたちの主体的な学びのためにどうぞよろしく願います。 ・子どもたちは「学校で学び」「家庭でしつけられ」「地域で育つ」ことが、何よりも大切だと思います。今後も「豊かな心の育成」に大いに努力していただきたい。 		

